【サイトデザイン】

明るい雰囲気にしたい。

背景に楽譜、など

Google:

[yasuhisa.tsugata@gmail.com](mailto:yasuhisa.tsugata@gmail.com)

tsugata2025

WordPress(local):

Motoki

FdtGIG$I9XPD2NHAPk

神山先生のロッカーに楽譜。

【ページ分け】

・サイトの経緯（HOME）

\_\_先生の推薦コメント

・プロフィール

\_\_\_

・作品ページ

\_\_スコア（例えば：最初のページのみページ上に画像配置で、残りは全ページファイルをダウンロード可にする、など）←新タブでpdfファイルが開くような仕様がよい。

一覧表示は編成順？

\_\_音源（YouTube埋め込み）

【アイデア】

・フォーム（作品についての意見）を寄せられる

・演奏情報

津堅泰久　年譜

1971（昭和46）年10月10日、兵庫県尼崎市生まれ。先天性の脊椎疾患により歩行困難者となる。

1978（昭和53）年４月、尼崎市立立花南小学校入学。

1984（昭和59）年４月、尼崎市立立花中学校入学。

幼少の頃より、両親からの影響もあってクラシック音楽に親しむ。ただし、小学生の頃から聴いていたのは、モーツァルトやベートーヴェンといったポピュラーな作曲家の作品よりも、Ｇ・マーラーの交響曲、Ｉ・ストラヴィンスキーの「春の祭典」「兵士の話」などを好んだ。日本の作曲家では、武満徹を聴いた。

そして、小学生の頃から特に愛聴したのはオペラである。Ｃ・モンテヴェルディの「ポッペアの戴冠」、Ｊ・オッフェンバックの「地獄のオルフェ」、Ｒ・レオンカヴァッロの「道化師」などを聴き、さらに中学生の頃からはＲ・ワーグナーの楽劇に心酔していった。

2004年３月20日、泰久は当時入会していた日本ワーグナー協会の第90回関西例会で、自身のワーグナー体験について発表した。その要旨を、協会季報「リング」第96号（2004年５月10日発行）では次のように伝えている（筆者は村田忠司）。

「津堅泰久氏が「ワーグナーとの出会い」のタイトルで発表された。豊かな環境の中、幼少より音楽に親しんでおられすでに幼稚園の時「第九」、その後「ポッペアの戴冠」「天国と地獄」　オペラ映画の「魔弾」「ヴォツェック」　Ｗのオペラ、マーラー、Ｒ.シュトラウスなどと、成長するに従って次々と未体験の音や響きそのものに大変興味をもたれ音楽を拡げていかれる。その中で特にＷの音楽については「自分のいやなことをダイレクトにぶつけることが出来、何かを返してくれる大変存在感のある音楽」として氏に大変感銘を与えたようだ。その旺盛な音楽的興味の早熟ぶりに筆者も含め参加者は皆、感心しきりであった。さらにバイロイトや海外のオペラハウス訪問の体験として、現地は作曲者と場を共有する一体感があり、日本への引越し公演では現地で感じた雰囲気とはどうしても異なってしまう。また最近の現代的な演出のオペラについては作曲者の声が聞こえず、演出と音楽がバラバラに聞こえると苦言を呈しておられた」

1987（昭和62）年３月、立花中学校卒業。卒後は進学せず、作曲に関する勉強を始める。

すでに1985年からの中学生時代から尼崎市内の新響楽器のエレクトーンハウスに通い、レッスンを受け始める。

1991年から94年まで、朝日カルチャーセンター「歌の作曲入門」を受講、高橋滋子氏から学ぶ。

1993年、日本ワーグナー協会入会。他界するまで在籍する。

1996年から2009年まで、大阪の国際楽器社音楽教室にてクラリネットを学ぶ。

1997年、朝日カルチャーセンターの「作曲・作品セミナー」を受講し、鈴木輝昭氏から学ぶ。

1997年・98年　山口県、秋吉台国際20世紀音楽セミナーに参加。同時期から橋本玲子氏より音楽理論、和声楽を学び、本格的に作曲活動に入る。

1998年から、ヤマハミュージックセンターに通い、宮口ジョージ氏からキーボードを学ぶ。

2000年、武生国際音楽祭の中に併設された作曲セミナーを受講。

また、この年の８月、初めてドイツへ渡航し、この年のバイロイト音楽祭を観覧する。これ以後、2001年９月、2002年７月にもドイツへ渡航。

2001年、武生国際作曲ワークショップに参加。細川俊夫氏に師事する。

2010年２月24日、病没。同年、武生国際作曲賞特別賞を受賞。